

## 第6回四万十町総合振興計画審議会 会議録

開催日時：令和3年度12月21日（火）14：00～

場所：四万十町役場東庁舎1階大ホール

出席者（13名）：横山 順一、尾崎 弘明、神田 修、横山 泰久、中島 克明、  
三浦 ひろみ、酒井 紀子、鈴木 幸代、野村 宏、藤澤 久美子、  
八木 雅昭、山本 由美、田村 敬子（敬称略）

欠席者（7名）：太田 祥一、泉 茂、佐々木 将司、田邊 誠進、船村 覺、  
森 雅順、岡村 健志（敬称略）

### ■ 会議次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 行政評価について
4. その他
5. 閉会

### ■ 会議資料

1. 会議次第
2. 委員名簿
3. 令和3年度行政評価事務事業一覧
4. 令和3年度行政評価
5. R3事務事業内部評価シート（事後評価）

### ■ 会議録

（事務局）

お時間になりましたので、第6回になります四万十町総合振興計画審議会をはじめさせていただきます。はじめに会長からご挨拶をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

（八木会長）

皆さんこんにちは。本日は年末の中この審議会にご出席いただきましてありがとうございます。新型コロナウイルスの方もこの1月余りは、県下で感染が止まっているということで、若干気が緩んでいるところもあるとは思いますが、年末年始には食事をしたりするケースも増えてまいりますので、また気をつけていただきたいと思います。

さて、先だって後期計画の答申についても皆さんにご意見を聞かせていただきました。後ほど事務局の方からも報告をいただきますけれども、ひとまず2次の後期計画の方は答申されましたので、町の方もその答申に基づいて計画の進行をお願いしたいと思います。

また、本日の会議につきましては行政評価についてということで、行政評価を私達がするというのも、少し荷物の重い問題ではありますが、やはり住民に向けて事業を展開されているか、そういう意味では住民の目線でみていくことも大事だと思いま

すので、後ほど事務局の報告を受けながら議論をお願いしたいと思います。限られた時間ではございますけれども、よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、早速ですが会議の方を進めて参りたいと思います。先ほど会長のご挨拶にありましたが、12月9日に総合振興計画後期基本計画の答申をさせていただいております。答申の内容については、事前にお配りさせていただきました案のとおりということで、特にご意見はございませんでしたので、そちらの内容で答申をさせていただいております。それでは早速ですが、行政評価についてご説明をさせていただきます。＜説明省略＞

(八木会長)

ありがとうございました。総合振興計画の後期計画の答申をしておりまして、答申の内容が6点ほどありますが、特にこの点について強調してほしいということなどがありましたらご意見をいただきたいですが、ありませんでしょうか。ないようですので、進めていきたいと思います。今事務局から説明をしました内部評価についてのご質問があればお願いしたいと思います。ごいませんか。

(事務局)

すみません、その前にご説明が抜けていたところがありまして、この事務事業の一覧の委員評価のところ、○か×とか理由を書く欄がありますが、ここは書く必要がございません。当初どういう形で会議を進めようかということで、様式の中に入れさせていただいておりましたが、先ほどご説明させていただきましたように、本日はこの事務事業の中から、どの事業をヒアリングするか決めていただいて、次回の会でその事業についてヒアリングをして評価をお願いするという形で進めたいと思っておりますので、1つ1つの事業についてどうなのかということを書いていただく必要はありませんのでよろしく願います。早速ですが、こちらの事務事業の内部評価シートの1ページ目から、担当課の課長、副課長よりご説明をさせていただきますのでよろしく願います。

＜各課より事務事業説明＞

はい、ありがとうございました。今日は感想から結構ですので、ご意見がありましたらお聞きしたいと思います。

(横山(順一)委員)

資料作成、ありがとうございました。すごく大変だったのではないかなと思います。感想にならないかもしれませんが、この評価シートを見させてもらう中で、しっかりと分析をして書かれているというところもすごくある中で、若干具体的に書かれてないところもあるかなと思います。我々からしたら、普段の取り組みが十分把握できてないので、もう少し具体的に記述してもらったら、すごく評価がしやすいのだろうなと思っています。

基本的には、各事業で個別の計画と言うものがあると思いますので、そういった個別の計画に基づいて、今後の取り組みとか課題や方針を書いていただければいいかなと思

います。それから若干気になるのは、課題とか未達成の要因というところで、工夫して代替案をもとに実施した取り組みもありますが、コロナのこととか高齢者が多いからとか、そういった理由でできなかったというのが、スパッと書かれているので、そういったところを「できなかった」で終わるのではなくて、「こういうところを変更して、こういうふうに取り組むことができた」とか、そういう代替案があれば書いていただきたいなと思います。コロナがあればすべてやめるのかということも想定されますので、そういった別の案を書いていただき、前向きな思いを入れていただいたら、町民の方にも分かりやすいと思います。

(八木会長)

ありがとうございます。ほかにご意見はありませんか。

(山本委員)

95ページの四万十川保全事業のことですけど、例年6月の一斉清掃がコロナで中止になったのは理由として、県の指示ということで聞きましたが、感染がおさまってきた11月頃にできなかったのでしょうか。私の住宅の近くの公園に子どもが遊ぶブランコとかありますけど、そこは業者の人に清掃をしてもらいました。先日も、4時間くらい草を引いたことでしたが、冬でもそういった清掃活動をやったらいいと思います。

(酒井委員)

沢山の資料ありがとうございます。ちょっと遅れてきましたので、最初にお話があったのかもわからないのですが、ちょっと重複したらすみません。今回の評価の仕方や振り返りの仕方とかはこれまでとはまた違って、今回はこの評価シートのように1つ1つ〇×をつけていく感じになるのでしょうか。

今回の特色ある農林水産と広大な自然環境のこの2点においては、こういう形式で評価を行って、ほかの分野についてはこれをしないのかっていう点と、例えばですけど、環境水道課の行っている事業と建設課の行っている事業がそれぞれでは目的に沿った事業であっても、横の連携をとって、総合振興計画で定める目指すまちの将来像にどうつながっていくのかという点が矛盾したりしないのかというところが気になりました。

例えば環境の方には良くて、建設の方ではちょっと困っていることとか、1個1個細かくやっている事業が、最終的に目指す町の将来像に向かって、どこで連携をとってやっているのかというところがすごく難しいところだと思いますけれど、それが分かったらもう少し違う目で判断しやすいのかなと思いました。

前日もSDGsが日本だけじゃなくて、世界中の国の指針となっている中で、町の方針として具体的に可視化して進めていくと決めたのであれば、例えばこの事業はSDGsの中ではこことかっていうふうを示すことも可能かなと思いました。

(事務局)

ご質問のありました評価の仕方ですけれども、会の冒頭で少しご説明させていただいたのですが、この一覧表の委員評価という欄に、〇か×や理由を書く欄があるのですが、これは無視をしていただけたらと思います。評価の仕方としては、今回まずは評価の対象となっている事業の全体像といいますか、そういったところを把握していただいたうえで、1月下旬頃に、もう一度、会を段取りさせていただこうと思っております、その時に、もうちょっと深くいろいろ聞いてみたいという事業を本日、数事業ピックアップ

ップしていただいて、その事業について評価をして頂くとともに、この対象になっている分野の政策目標に対して、今の取り組みがどうであったのかと言うところの評価をしていただきたいと考えておりますので、この1つ1つの事業について、どうだったかなということを書かなくていいという事でご理解頂ければと思いますので、よろしくお願い致します。

それと今年度は1番と7番の政策目標のところについて評価をしていただくようになっているのですが、来年度以降につきましてはまた違う政策目標の分野を選択しまして、ローテーションで評価を回していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

(八木会長)

はい、分かりました。後ほど具体的に、評価をしていただく事業について決めていきたいと思いますが、前段でのご質問がありましたらお願いいたします。ないようでしたら、評価をしていく項目ですが、関心のある項目などを出していただけたらと思います。

(横山(順一)委員)

ちょっと機械的な提案になるかもわかりませんが、会議次第の4ページに総合振興計画の施策目標に関する指標の進捗状況についてというところに、(1)、(2)、(16)、(17)というところがあるのですが、その中からそれぞれ事業をピックアップするというのも方法の1つではないかと思えます。

(神田委員)

先ほど機械的という話が出ましたけれど、そういった視点でいけば、一覧表のところの拡充となっている2つの事業については、担当課の思いもあると思えましたので、もっと深く掘り下げて聞いてみたいかなと思いましたが、皆さんいかがでしょうか。

(酒井委員)

私の場合は、将来像の「山・川・海 自然が 人が元気です」につながるもので、先ほど林業の方でもこれはとにかく基礎のところだから、どうしても外せないというお話があったと思いますが、基本的なところで大事にしている事業について、山なら外せない事業とか、川なら外せない事業というところをもう少し掘り下げて聞いてみたいと思います。

(八木会長)

四万十町のスローガンをベースに、そういうところを大事にして事業の展開できるかどうか、そういうところを聞きたいということですが、横山委員、農業の関係からしたらですね、基幹産業ですので、今回評価をしてみたいという事業はありますか。

(横山(泰久)委員)

評価してみたいというのは無いのですが、特に四万十町については町独自の取り組みを沢山やっていただいて、地域の特色を生かした農業や課題を解決するための取り組みがなされているというふうに考えております。そういう部分は今後も大事にして継続して行ってほしいというふうに考えております。

(野村委員)

四万十町では、農林水産業が柱になっているとは思いますが、興味があるのは 87 ページの新規就漁者支援事業です。農林水産課長さんも言われたのですが、興津の方で、定置網で多分大敷だと思いましたが、いわゆる未経験者の方を募集しているというのをマスコミで見ました。今室戸市で、いわゆるサラリーマン漁師ということで、県外から募集して一定の成果を上げているというふうに報道されていました。そういったことも新規の就漁者数に該当するのでしょうか。

(農林水産課：池上課長)

先ほどの 87 ページの新規の漁業就業ということになりますけれども、想定しているのは、独立して自分でやられる方です。雇用の方も対象にはなりませんけれども、人数制限がございますので、この中のこの事業でやれるっていうのは 1 名しか対象になりません。ただ、今現状としてはそういったことも必要だということと、1 人前になるにはなかなか時間がかかるということで、個別で民間事業者の方が人を募集しておりますけれども、そういう方々の一定の研修については、町の方からも人件費の助成ができないだろうかというようなことで検討しているという状況でございます。

(八木会長)

ここで先程、質問があった町内一斉清掃の回答をお願いしたいと思います。

(環境水道課：清藤副課長)

これは令和 2 年の一斉清掃のことを書いておりまして、去年はもうずっとコロナが増えたり減ったりを何度も何度も繰り返したということと、またコロナというものを去年初めて私たちも経験をしたということで、なかなか次の一手を出すことができませんでした。実際、今年度も 6 月にやろうという時に、また感染者数がぐっと上がってきてできませんでした。今年に関しては秋にやろうということで、だいたい 11 月ぐらいを決めていましたが、また感染者数が上がってきたところと、選挙やコロナの集団接種等もございまして、とにかくこれは人でやる事業なので、人がいないとできないということもあり、なかなか役場の人間を集めることもできず、また建設業者にお願いすることもできずということで、なかなかうまくできなかったということになります。来年度は、是非やりたいというふうに担当課は思っておりますので、そのようにご理解ください。

(八木会長)

ありがとうございました。今の時点で、9 項目くらい出ているのですが、皆さん、せっかくの委員さんですので、こういうことについて事業評価をしてみたいという項目がありましたら、もっと意見を聞きたいと思いますが、ございませんか？

(尾崎委員)

四万十町社長の尾崎と申します。39 ページの大正・十和地域の営農体制支援事業というところで説明があったわけですが、これは 5 年後を見据えたことで、お話をされているということですが、やはりその高齢化が進んでいるということもあって、地域の生産者にとって、重要な課題になっているというお話が出ていました。このお話はですね、農林水産課と大正・十和地域振興課で協議をして進めているというお話だと思っておりますが、その課以外も絡めながら話を進めていくことが大事ではないのかと思いまし

た。やっぱり四万十町にとっても高齢化というのは、1つの問題でもあると思うので、これについても協議していくべきではないかと感じたところでした。

(八木会長)

はい、ありがとうございます。

(農林水産課：池上課長)

私の方からお答えいたしますけれど、今現状で農業の関係課だけで協議をしている内容について、お話させていただきますと、実際は農作業をやってくれる方がいないということで人手不足なのですよね。人材よりも人がいないという状況がありますので、どちらかというと、窪川の方はまだ集落営農組織を中心に、苦しいところはありますが現状が維持されている状況です。ただ大正・十和については非常に厳しい状況にあるので、農地を守るというところについては、どのようにしたらいいのかということ、振興局と本庁の方で共有しているところでもあります。そのベースがないと、なかなか次のはできないという認識もありますので、合併してからずっと課題ではありますが、まずはその農地を守るということができかどうかというところで、協議をしているところでございます。おっしゃるとおり、もう少し広げて「農村」というような考え方という、ほかの課にも関係してくるところだと思います。

(八木会長)

ありがとうございます。他の委員さんの方からはございませんか？

(藤澤委員)

資料の49番の環境学習事業とか、それから企画課の四万十川水産資源事業とか四万十川川ガキ育成事業とかいうのは本当に繋がることではないかと思います。四万十川は本当に有名で全国の人が四万十川って聞いただけでイメージが湧く川なのですが、本当にこの10年、20年でずいぶん変わってきていると思います。それと私は保育園の時によく川で遊んだのですが、遊んだ体験が小さい時から無いと絶対自然って大事にしないと。今、窪川高校で給食のおばさんをしてますが、この間給食で鮎を食べさせてもらいました。とにかく先生方が大喜びで食べてくれました。けれど、生徒の中には、鮎を食べることができない生徒も何人かいました。すごくもったいなかったですが、やっぱりそれは小さい頃から、鮎と触れ合う機会がなかったからだと思います。小さい時に、川のそばで、焼きたての鮎にお醤油をかけて食べていたら、絶対食べれると思います。だから、こういう企画とか学習体験の中に、必ず保育所も入れて欲しいと思います。今、親に連れて行けと言っても、もう若いお母さん、お父さんもスマホがあったらいいので、なかなか川にも行きません。だからそういうイベントを設定して、とにかく川で遊べるという環境を作って欲しいと本当に思っています。子どもが川と深く関わることをお願いしたいと思います。

(三浦委員)

31ページの機構農地集積協力金交付事業というところで、使われなくなった農地を貸すという、高知県農業公社と業務委託契約を締結してマッチングさせるような感じの事業だと説明をしてもらったのですが、実際、今の四万十町全体でこの高齢化とかで、もう農業できなくなった方とか、マッチングもできなくて、使われなくなって荒れて

いっている農地がどれぐらいあるのかと思って。それというのうちには、コミュニティバスをやらせてもらっていて、定期的にこの経路を回ったりもするのですが、前に「里川」というところに行った時に、社長が「ここもだいぶ荒れたね」と言っていました。やっぱり農業の勢いがなくなるというのもあるのですが、景観という面でも、荒れた農地がどんどん増えていくと、すごく四万十町は綺麗なところですので残念ですけど、このあたりの事業がうまいこといってるのかなと少し思いました。

それと、これは掘り下げてというより、ふと疑問に思ったのですが、77ページの四万十川流域豊かな森林保全整備事業っていうところで、令和6年度からこういうことの活性化を図るために、町民税にいくらか上乗せをするということをおっしゃっていたと思うのですが、これはどれぐらい上乗せされるのかなと思いました。あの別に反対とかじゃないです。山が荒れると、川や海も荒れますので。

あと、最後に117ページの廃棄物処理施設運転管理事業というところで、クリーンセンターとかからのダイオキシンとか、いろいろと適正な運転を実施するための、監視みたいな感じだと思うのですが、その中で事業内容の最後のほうに焼却灰をセメントの材料にリサイクルし、埋立貯留施設の延命化を図るっていうことを書いてますが、これはここで聞くことではないかもしれませんが、このコロナ渦で、ものすごく家を掃除するようになって、ここ1~2年、クリーンセンターに何度もゴミを出させていただいて、すごく助かりました。そこで、このクリーンセンター銀河の寿命はどれぐらいなのか、少し気になりました。掘り下げるとかではないので、よかったら教えてください。

(農林水産課：池上課長)

まず農林水産関係のですね、31ページになりますけれども、機構農地集積協力金のところで、総括してうまくいっているのかという話だったと思いますけれど、これは農業委員会の所管になりますけれども、まだ田畑に戻せる農地、これも耕作放棄地には該当いたしますが、それが約5haぐらいというような数値として掘んでいます。

ただ、もう田畑に戻らない分で、見た感じ木が生えているとかですね、ほぼ山のようなところについては、かなりの量があるというふうには認識しております。今、この事業をあの集積協力金の事業をやっているのは、今の農地を貸し借りできればということで、県内の中で1番利用率が本町は高いということで、できるだけうまくいくようにと実施をしているところであります。課題というかですね、今後、お米の需要が非常に減少していくことが見込まれています。ちょっとろ覚えですけど、農業新聞では、今回も4万haぐらいの田んぼは、お米を作らなくてもいいというような、そんなことも書かれておりました。全国レベルの話ですけど、そういった状況の中で本町を当てはめると、お米じゃないものを作るか、または農業でないことに活用するのかといった選択も、だんだんと迫られていくというような状況だというふうには認識しております。

それから、森林環境譲与税の関係の77ページの方で、自分の方が、住民税に上乗せされるというご説明をいたしましたけれども、これは本町だけではなくて、全国的にということではあるのですが、1人あたり均等割として1000円ということになりました。現状も高知県の森林環境税は1人あたり500円上乗せされていますけれども、今のところの考え方としてはそれがなくなって1人あたり1000円がというような状況です。まだはっきりしませんので、開いてみたら、もしかしたら1人1500円上乗せされるかもしれませんけれども、そういったことで貴重な財源をいただいて、それを森林整備等に活用していくということでございます。

(環境水道課：清藤副課長)

クリーンセンター銀河の寿命と言う事でお聞きをしましたがけれども、クリーンセンター銀河の方は、現在19年経っております。ただ、この建物自体はとても頑丈に作られておりまして、建物自体はメーカーサイドでは50年でも70年でも使えるというふうには言われていますけれども、「炉」については、それなりに寿命があるかとは思いますが。寿命を迎えさせないように、定期的なずっと修繕を繰り返しながら使っております。また適正な焼却もしております。代替施設を建てるということになれば、相当のお金がかかりますので、この施設を本当に長く使えるように補修メンテナンスを充分しておりますので、あと10年でダメということはないというふうに、こちらの方は考えております。

また、この埋立貯留施設というのは、焼却灰を置くところになっておりますけれども、現在80%ぐらい埋まっています、令和元年よりその灰の搬出をしており、セメントの材料にするようにリサイクルをしています。灰には2種類ありまして、セメントの材料になる分と、薬品で固めて、もうそれは絶対にリサイクルはできない分と2つあるのですが、リサイクル出来る方の灰はほぼ全量に近いぐらい搬出させていますので、できるだけこちらの方も延命化しようということで、頑張っております。

(八木会長)

ありがとうございました。質問とか、ご意見に対する回答もありましたが、皆様から出された意見の中で、15項目ぐらい出されたのですが、事務局からは数項目ということですので絞り込みたいと思いますけれども、本日は全員の委員さんがおいででおりませんので、15項目をピックアップして、次回の会の召集の少し前に、こういう事業について皆さん方の希望がどうだろうかということで確認をして、希望する事業を事務局に回していただいて、事務局の方で数項目にまとめていきたいと思いますが、いかがでしょうか？

(酒井委員)

基本的なことを外して欲しくないっていうのもあるのですが、あともう一点。経済的なことも町にとってはとても重要なことだと思うので、経済的な面で行政側として、ここはちょっと掘り下げて考えてほしいっていうのを教えてもらえたらいいなというのと、この費用対効果とか、住民ニーズ貢献度は高いところではもう構わないので、逆に低いところをちょっと持ってもらいたいとか、そういう行政サイドの要望もちょっと入れてもらえたらいいかなと思いました。

(山本委員)

4～5つということでしたけど、私は1番最後の危機管理課の南海大地震の津波避難対策推進事業を選びたいと思いますけど、よろしくをお願いします。

(神田委員)

時間のないところすみません。15項目もあって、準備が間に合いますか？

(事務局)

今日、出していただいたご意見をピックアップさせて頂いて、郵送でその中から出していただいた事業の中から、どの事業がいいかっていうのをご回答いただいてという形



でやったら、間に合うのは間に合うかなと思いますが。

(神田委員)

正月挟んで、そのやりとりが間に合うのかどうかですが、僕、普段事務局やってるので、なんか勝手な心配してるんですよ。

(川上課長)

すこし整理をさせていただきたいと思います。

(八木会長)

せっかくのご意見ですので、出来る限り、数に沿うようにやりたいとは思いますが、15項目というのはかなり多いですので、ただ今日ですね、各担当の説明からしたら、どれを質問してもいけるのではないかなと。評価について、それぞれが意見交換できるのではないかなと思いますが、10項目以内ぐらいで絞り込んで評価にあげたいと思いますがよろしいでしょうか。

(鈴木委員)

多くて大変だって言ったのにすみません。自分はあの結構高齢者の方の話を聞く機会があって、やっぱり1人で暮らしている方はすごい不安を抱えながら日々暮らしているらっしゃって、集落の中のご近所づきあいの繋がりがってというのはとても重要だなって日々思っていますが、そんな中でちょっと気になったのは、9ページの集落営農組織へのサポートっていうのは、どんなことをされてるのか教えてください。

(農林水産課：池上課長)

お答えします。9ページの集落営農推進事業です。今、ご質問聞いた中で自分の解釈として委員がおっしゃられたのは、集落の中での見守りだとか、そういったイメージかなとは思ったのですが、この中の集落営農というのは、まさに農業をする団体でございますので、その中の支援としてはですね、農業機械を買う場合の支援や、その中で雇用されている緑の雇用という国の制度がありますけれども、それに似たような形で、農業の雇用を維持するというような、そういった意味での支援ということでご理解いただければと思います。

(八木会長)

予定の時間になりましたけれども、せっかくですね、今日、県の田村さんにもおいでいただいていますので、県の立場から、評価のあり方じゃなくて、県がもしそういう評価なんかしていたら、何か参考になることがあればお願いしたいと思います。

(田村委員)

お疲れさまでした。個別の授業を1つ1つこんなに丁寧に評価されてる自治体はあまりないのではないかなと思っております。やっぱりまたそういう興味関心が高い事業についてヒアリングしてくださるといことが、すごく素晴らしい取り組みだと思います。評価には、自己評価と外部評価というのがあって、外部評価の意見を検討して頂く材料にさせていただいたらいかなというふうに思いますので、いくつかどうかという部分も様式的にはありますが、またより良いものに、これから分かりやすく公表していく

ということも大切だと思いますので、そういうのもひと工夫しながら、これから進められていったらいいのかなというふうに思いました。

(八木会長)

項目が沢山ありますが、皆さんが出来る限りこの評価に関われるように事務局と相談をして、次回1月の審議会までに資料をお送りして、皆さんから、こういうものを中心に評価して欲しいというものをまとめて、再度あの各担当課の方にもご参加いただいて評価をさせて頂きたく思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

他に皆様からのご意見はございませんか。無いようでしたら、これで本日の審議会を閉会したいと思います。寒くなりますので、身体に気をつけて良いお年をお迎えください。

— 閉会 —